10.現地調査の実施

有識者ヒアリング及び現地調査の実施概要（案）

（1）内容

対象地域内における選定されたエリアについて、移動を含め、外国人モニター及び有識者による現地調査を行い、調査後のアンケートを実施し、意見集約を行った。
実際に地域内に来られた外国人旅行者にもヒアリングを実施した。

●現地調査
当該地区駅から、バス、鉄道に乗り、今回選定されたエリアを周遊しながら
点検を行い、アンケートを実施。
併せて、大阪観光大学の土屋教授からの課題抽出を行った。

●有識者土屋渉（大阪観光大学教授）

●ヒアリング
調査終了後、調査の感想等のヒアリングを行った。

（2）調査の視点

当該地区地域内において、改善されたサイン表記における理解度及び、適正度やホスピタリティの有無等を視点として調査を実施。
また、今回提案した「ピクトグラム+ナンバーリング」によって、言葉の壁をどの程度補っていく事が可能かも視野に入れた調査。

1. 交通拠点から、各目的地までのスムーズな移動及び、安心感とホスピタリティを持てたかどうかを確認し、改善すべきところは、改善が行えるように課題抽出。

2. 目的地での移動がスムーズにできたかを確認し、改善に繋げる。
問題点の再度の洗い出しを実施。

3. サイン関係の表記に不適切な表現や、視覚的に気分を損ねるものはなかったか等の確認とともに改善策をヒアリング。

4. 手持ちマップ及び、目的地の観光案内図、誘導サインの「ピクトグラム+ナンバー」の表記のリンクに関して、理解ができ、行動に関して不自由な点がないか調査。

(3)調査体制(メンバー構成)

現地調査の体制
- ・外国人モニター
- ・有識者(関係大学　観光担当教授など)
- ・外国人旅行者(アンケート調査)
- ・当該地区関係自治体
- ・当該地区関係事業者
- ・事務局(電通)

◆外国人モニター内訳

事前調査(参加者)

	母国語	性別
1	英語	女性
2	英語	男性
3	中国語繁体	男性
4	中国語繁体	男性
5	中国語簡体	女性
6	韓国語	女性

有識者	(土屋　教授　　大阪観光大学教授)	男性

検証調査 (参加者)

	母国語	性別
1	中国語簡体	女性
2	中国語簡体	男性
3	中国語簡体	女性
4	中国語繁体	男性
5	中国語簡体	女性
6	中国語繁体	女性
7	英語	男性
8	英語	男性
9	英語・韓国語	男性
10	英語	女性

有識者	(土屋　教授　　大阪観光大学教授)	男性

橿原市（今井町）地区多言語化設置後調査について

大和八木駅付近

奈良中心部に比較して南部地域は国際的観光地としては、外国人向けガイドブック等で紹介されているにも拘わらず、まだ十分な案内表示を行っているとは言えない。大和八木駅は藤原京跡、橿原神宮、今井町への観光拠点としての役割を果たしているが、駅自身が郊外型の通勤ターミナルとしての役割が大きく、魅力ある観光案内所があるものの、観光拠点としての多言語案内表示の整備が、他の案内表示と混在し、やや不充分であった。今回の多言語案内表示では、ひとり歩きの外国人観光客にもわかりやすくするため、統一したデザインで多言語に加え、ピクトグラムで表示を行った。その結果、設置前と比較して、わかりやすい案内表示になり、モニター結果からも観光案内所、バス停への導線も外国人にとってストレスなくいけるとのコメントがあった。バス停も目的別にナンバリング表示されていることをはっきり統一したデザイン表示をすることにより、外国人にとって目につきやすくなったと言える。

藤原京跡、橿原神宮、今井町エリア

案内表示を大和八木駅と同じデザインにすることで、目的地でも、すぐに多言語表示案内板を見つけやすくことを目的とする効果は充分にあった。
藤原京跡では既存の案内表示を有効活用し、多言語案内表示を合わせることにより、景観にも配慮しながらひとり歩きの外国人にも目的地に着いたことをわかりやすくし、ガイドブックを見ながらの目的地散策に役立つ効果があった。バス停と観光地の地名が合致しないようなエリアではこのようにわかりやすい多言語の目的地表示が有効である。樫原神宮でも施設として多言語表示が充分なされているが、ひとり歩きの外国人への導線となると不充分で、今回の多言語案内表示により設置前に比較して利便性が向上したと言える。この今井町の魅力を伝える多言語表示案内板を設置できたことは今後の観光地としての魅力を高める価値があったと言える。

今後の課題

今回の多言語案内表示設置で統一したデザインで多くの情報から外国人向け案内を見つけやすくすることに意義があったと考える。今後はこのように統一したコンセプトで地元自治体・観光施設が一体となった多言語案内板設置をすることが望まれる。

■近鉄大和八木駅周辺

ks1

ks23

ks5

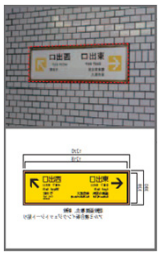
ks6

ks7

ks12

ks13

ks14



事前調査

●地図や誘導サインがないので、インフォメーションセンターがどこにあるかわからない（英・中・韓）

●ピクトグラムがあればよい（英）

●誘導サインは英語表記だけで韓国語がない（韓）

●駅を出てすぐにある周辺地図は日本語表記しかないが、町歩きの地図のコースは緑、赤、青で、色分けされているのでわかりやすい。但し、日本語版しかないので詳しくはわからない（中）

●駅を出てすぐにある周辺地図は日本語表記しかないのでわからない（英）

●バス停は、路線図がないうえに終着地の行き先しか表示されていないので、行きたい目的地に到着するバスなのかどうかがわからない（韓）

●インフォメーションセンターにインターネット末端があり地図検索もできるが、日本語しか使えないのが残念（英・中・韓）

検証調査

●柱巻きよりサイン看板で目立たせてほしい（中）

●見つけにくい(特に駅に近い方)(中)

●「観光交流センター」「ビジターセンター」「観光案内所」など日本語では様々なネーミングがあるようだが、直訳せず観光客のための「案内所」であることがわかるよう「tourist information」の表記を入れてほしい（英）

●「Kashihara City Tourism Exchange Center」にもinformationの表記があるとよい(英)

●「交流」の中国語訳は「案内」の意味が含まれないので「案内」とわかるようにしてほしい(中)

●「藤原宮跡」「橿原市昆虫館」表示は小さくて見落としてしまう可能性がある（英）

●バス系統図上部はとくに問題ない（英）

●「明日香奥山」の中国語訳に「村」の文字はなくてもよい（中）

●わかりやすい(中)

●「おり場」の英訳で「Alight」は米国では使わない場合が多い（英）

＜土屋先生の意見＞

●とくに大きな問題はなく、わかりやすい。

■今井町周辺

ks15

ks18

ks20

ks21

事前調査

●ビデオの視聴や説明は日本語なのでわからないが、ジオラマや民芸などがあるので昔の町並みをイメージできた（英）

●地図にQRがあった（中・韓）

検証調査時

●目の前にある橋が表記されていない。記載されている橋は高架橋の向こうで目視できない。現在地から今井町までの行き方を地図面に矢印等で示してほしい（中）

●今井町まちなみ交流センター前看板はわかりやすい（英）

●（？）に気づかなければ「華萱」が何の施設なのか判断がつかない。ここにも「information」の表記があるとよりわかりやすい（英）

●トイレのサインの位置が下にありすぎて注意しないと気づかない(中)

●トイレのサインは非常にかわいいデザイン（中）

＜土田先生の意見＞

●日本語の「今井町」に比べて外国語が小さすぎる。

■藤原宮跡

ks8

ks9

事前調査

●バス停横に宮跡が広がる。案内サインはあるが。バス時刻表・路線図ともに日本語表記のみ（英）

●橿原市藤原京資料室の館内展示・案内パンフ等はすべて日本語（中）

検証調査

●バス停横のサインは現在地も、前に広がる宮跡との位置関係もわかりやすくてよい（中）

●「ようこそ藤原宮跡へ」という表示が多言語化されていて、目の前に広がる土地が遺跡だとわかる（英）

●資料室のサインもわかりやすくてよい（中）

●資料室のジオラマに現在地の表示があるとイメージが広がりやすい（英）

■大神神社

sk31

sk32

事前調査

●バス停は神社の目の前にあり、境内への誘導サインは必要ないが、境内案内ほかサインにはまったく外国語の表記がない（英）

●路線図・時刻表に外国語表記がない（韓）

検証調査

●大神神社路線バス停留所名の英語表記が長い（中）

●バス停の名前は長いが多言語化されたことで観光客の周遊の助けにはなる。あるとないでは大きく違う（中）

●参拝者歩道の表示が大きくてわかりやすい（英）

●参拝者歩道の表示は矢印の方向を斜めにするなどの工夫がほしい（英）

●参拝者歩道の表示は目立つ場所にある（中）

●ピクトグラムがわかりやすいのでひと目で歩道を通るべきだとわかる（英）

■観光パンフレット（橿原市　タウンマップ英語版　繁体字版）

事前調査

●インターネットで情報収集することが多いので同じ形式で現地で情報を入手したい（英）

●スペイン語版やハングルまであるのに、繁体字版がない。簡体字でも意味が通じなくはないが、やはり表現が多少異なる。（中：繁体字）

検証調査

●便利になった。パンフレットの配布場所が限定されているので場所をふやすべき（英）

●わかり易くなった。観光センター以外でも広範囲に置いて欲しい（中：繁体字）

吉野地区多言語化設置後調査について

近鉄吉野駅付近

吉野駅は他の奈良の観光地と異なり、駅そのものが日本の古い様式を継承しており、外国人観光客が体験したことのない施設である。このエリアは日本人観光客にとっては有名な景勝地であるため、特に日本人に向けては十分な観光案内は必要ない。しかし、外国人に向けては吉野地区の魅力を伝える多言語案内表示が必要である。今回の多言語表示ではモニターの意見を参考にピクトグラムと多言語を組み合わせた案内表示板を作成することにより、ひとり歩きの外国人にも円滑にケーブルカーへの誘導を行える表示になったと言える。また観光案内図についても外国人による調査結果を踏まえ、見やすい場所に設置し、外国人観光客にもわかりやすいデザイン、多言語表示になった。このことに吉野地区の観光地としての魅力をわかりやすく発信する効果があったと言える。

奥千本、金峯山寺、吉野山地区

ケーブルカーで山頂に上がってからの導線については、日本人なら門前町の雰囲気等で（案内表示なく）行けるので、外国人にとってはわかりづらい案内標識しかなかった。今回、目的地までの日本語のみの誘導看板に多言語化表示を加えることで外国人にも目的地まで誘導することができ、ケーブルカーに接続する巡回バスのバス停についても多言語化することでひとり歩きの外国人の移動を円滑にすることができたと言える。加えて、吉野山のビジターセンターの案内表示、観光案内地図についても多言語でわかりやすく表示することにより次の目的地までの距離等をはっきりと明示することで、外国人が吉野山全体の周遊観光を可能にすることができたと言える。

今後の課題

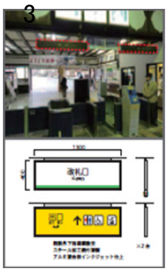
外国人にとってはケーブルカー等の乗り物も魅力的な観光資源であり、日本人向けにはない多言語案内表示及び解説をすることは今後重要になってくる。今回の外国人モニターによる調査でも日本人にない視点でケーブルカーに価値を見た外国人がいたことを参考に述べておく。今回の多言語案内表示をきっかけに吉野地区と言えば桜と紅葉の季節に日本人観光客であふれかえることになるが、これら季節の魅力を地元自治体、公共交通機関、観光協会が一体となって多言語案内することにより、外国人を呼び込む工夫も今後必要になってくる。

■近鉄吉野駅

ys 1

ys 2

ys 3



ys 4

事前調査

●駅構内の電照案内地図の一部英語表記のほかはケーブル駅までの誘導のための外国語表記なし（英）

検証調査時

●トイレ、ロープウェイの場所がわかりやすい（英）

●駅でケーブル、登山口を分けて表示してほしい。（中）

●運賃表もわかりやすい（中）

●駅構内に観光地を紹介するマップがほしい（中）

●スルッとKANSAIが使えるのか使えないのかがわからない（中）

●駅構内に山の観光パンフが見当たらなかった（英）

＜土屋先生の意見＞

●構内に他言語表記があってわかりやすい。

●改札前の案内サイン、駅を出てすぐの案内サインともに多国語化されていてわかりやすい。

■近鉄吉野駅～ケーブル千本口駅

ys5

ys6

事前調査

●日本語サインは漢字で予測がつく。しかし、ケーブルのりばのサインはカタカナとひらがななのでわからない。ケーブルのピクトグラムかサインがあるとよい（中）

●駅からケーブル乗り場までは100mほどで、直線方向なので問題なかったが、サインの意味はまったくわからない（英）

●地名などにはローマ字のふりがながあると助かる（韓）

検証調査

●ケーブル乗り場の横型サインはわかりやすい（英）

●文字の大きさも設置場所もわかりやすい（英）

●サインにスペースの余裕があるので、乗り場までの距離や料金が表記可能ではないか（中）

●やや文字が小さい（中）

●矢印がわかりやすく、目指す場所がイメージできる（英）

●ケーブルの切符にも英語併記が望ましいし、往復切符は携行しておかなければならないことが理解しにくい（英）

＜土屋先生の意見＞

●ys6の設置場所は電柱の手前にした方がよい。

■ケーブル千本口駅構内

ys23

表面

裏面

事前調査

●日本語サインは漢字で予測がつく。しかし、ケーブルのりばのサインはカタカナとひらがななのでわからない。ケーブルのピクトグラムかサインがあるとよい（中）

●駅からケーブル乗り場までは100mほどで、直線方向なので問題なかったが、サインの意味はまったくわからない（英）

●地名などにはローマ字のふりがながあると助かる（韓）

検証調査

●わかりやすいが左矢印はすぐ目の前に切符売場があるので不要（中）

●改札前サインの料金表はわかりやすい（土）

●ys23:改札前サインの金額の表示がわかりやすい。デザインが良い（中）

●改札前サインの中国語での案内表記（簡体中国語と繁体中国語の混同表記）に注意が必要（中）

●時刻表が他言語化されていないのでわからない（英）

＜土屋先生の意見＞

●改札前サインに料金表があるのでわかりやすい。

●改札のどちら側が乗車用通路かわからない。日本語表示しかないので間違えて降車側の通路に入ってしまう可能性がある。

■吉野山駅・千本口地図

ys7

ys8

事前調査

●トイレと切符売場のサイン以外、英語表記はほぼない（英）

●駅を出てすぐのバス停は日本語表記のみ（英）

●案内表示はまったくわからない（韓）

●どのように進むのかまったくからない（英）

●英語表示がまったくないので、バスの識別はもちろん、どちらの方向へ行くのかもわからない（英）

●バスのピクトグラムがほしい（中）

検証調査

●登山道の案内がないのでケーブルしかないように思ってしまう。また、地図上にはバス停の表示があるが山上にバスが周遊している案内がなく、冬季に運休していることもわからない（中）

●よく目立つし、わかりやすい（中）

●「バス停」が翻訳されてないので意味がわからなかった（中）

●「竹林院」などビューポイントには説明文もあったほうがよい（中）

●地図上で目的地までの距離感がつかめない。メートル表記があればなおよい（英）

＜土屋先生の意見＞

●間近で見れるので文字の大きさは問題ないが、パンフレットがあればなおよい。その際、パンフレットと地図のデザインを全く同じにした方がよい。

■ケーブル吉野山駅・下千本バス停

ys10

ys11

事前調査

●トイレと切符売場のサイン以外、英語表記はほぼない（英）

●駅を出てすぐのバス停は日本語表記のみ（英）

●案内表示はまったくわからない（韓）

●どのように進むのかまったくからない（英）

●英語表示がまったくないので、バスの識別はもちろん、どちらの方向へ行くのかもわからない（英）

●バスのピクトグラムがほしい（中）

検証調査

●よく目立つ（中）

●文字が小さくて読みにくい（中）

●ピクトグラムもあり、ひと目でケーブル乗場だとわかる（英）

●上り、下りでそれぞれ矢印の向きを斜め上、斜め下にしたほうがわかりやすい（英）

●時刻表も多言語化してほしい（英）

＜土屋先生の意見＞

●サインが大きく、どこからでも視認しやすい。

■吉野大峰ケーブル自動車バス停

ys12　1枚

Okusenbon-guchi

ys13　1枚

Nyoirinji-guchi

ys14　1枚

Kinpusenji-mae

ys15　1枚

Chikurinin-mae

ys16　2枚

Yoshinoyama Sta.

ys22　2枚

Katte jinja-mae

事前調査

●日本語表記しかない（英）

検証調査

●バス停自体の設置場所がわかりにくい（中）

●バス停が小さくてわかりにくい。観光客は金峯山寺門に目を奪われているので、バス停を見落としがち（中）

●バスが運行していることがわかりにくい（英）

●英語表記があるが何かの名前だろうということしか理解できない（英）

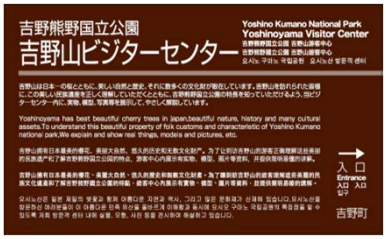
＜土屋先生の意見＞

●英語表記があるが、「バス」という表現がないためバス停とわかりづらい。ピクトグラムもケーブルカーではなくバスの方がよい。

■吉野山ビジターセンター

ys17

ys18



事前調査

●漢字で「資料館」と表記されていたのと、ポスターが貼られているので何となくビジターセンターとわかったが、おそらく「案内所」だと気づかないと思う（中）

●パンフレットは奈良の総合情報が掲載されているが、大雑把なので吉野山の歩き方はわからない（韓）

●日本語や漢字が読めないのでまったくわからない。一般的な情報しかないので、吉野山を自力で周遊できない（英）

検証調査

●帰り方がわからないので山の地図がほしい（中）

●歩く距離が長いので事前に距離の目安となる情報がほしい（中）

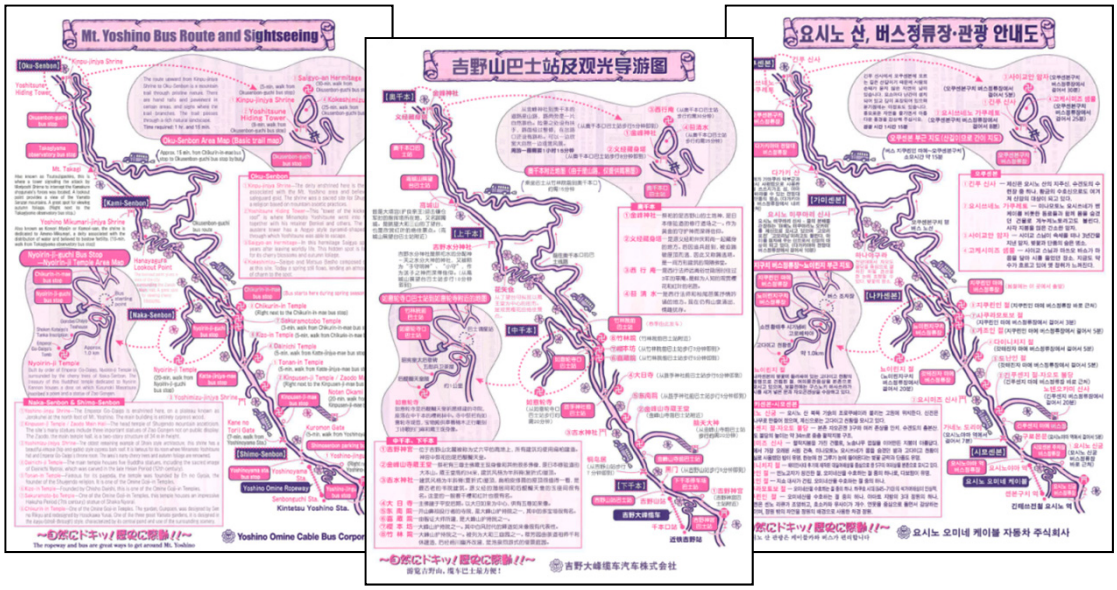
●センターの建物前に「インフォメーションセンターがある」というサインがあればよりわかりやすい（英）

＜土屋先生の意見＞

●「i」マークと「?」マークの混在がある。

●ビジターセンターにはツーリストインフォメーションという名称表示が必要。

■観光パンフレット（吉野町吉野山、英語版、中文版、ハングル版）



事前調査

●日本語の地図（リーフレット）しかなく、不便。

●HPでは英語情報などが一部検索できるが、細かすぎてわかりづらい

検証調査

●簡潔でわかりやすい。これ一枚あれば困らない。しかし駅以外にも各箇所において欲しい（英）

●便利だが、吉野山各地にある絵地図などと同じイラストなら、さらにわかりやすいだろう（韓）

●日本語と中文では同じ感じでも意味が通じにくい場合もあったが、中文リーフレットがあって助かる。（中：簡体字）

桜井地区多言語化設置後調査について

桜井駅周辺

桜井駅は近鉄・JRが接続する比較的大きな近代化されたターミナルであるが、観光案内所の表示も含めて多言語化されていなかった。今回の調査では外国人モニターの意見も踏まえて、大きな駅ターミナルから目的地へ向かうバス乗り場への多言語案内表示をすることに大きな効果があったと思う。桜井駅のようなターミナルでは広告を含む様々な情報板があり、ひとり歩きの外国人観光客が円滑に移動するための情報発信には工夫が更に重要である。観光案内所への導線案内、目的地を表示したバス乗り場案内は大きくわかりやすい多言語案内板になった。これら案内表示は日本人観光客にとっても有意義で、駅ターミナルの景観向上にも寄与したと言える。バス路線図についても今までは日本人にもわかりにくい表示であったが、今回の多言語案内表示ではバス停と料金をわかりやすく多言語で表示し、バスによる外国人観光を促進する体制が整ったと言える。

安部文殊院、聖林寺、談山神社、大神神社、長谷寺

桜井駅を起点とする地区には観光資源を持つ多くの観光地が存在する。しかし、これらをつなぐバス路線、観光地での案内表示については日本語のみもしくは、日英のみの表記がほとんどで、外国人観光客に対応したものではなかった。今回の多言語案内表示では、外国人観光客の視点でバス停、バス車内の電子案内それぞれの目的地でわかりやすい案内表示になったと言える。具体的には、安部文殊院では文殊院のゆかりを多言語案内表示するなど、聖林寺、談山神社、大神神社で、それぞれの観光地で外国人観光客の利便性を高めた。また、長谷寺では門前町も含めた景観が観光地として魅力的であることから、門前町から長谷寺への導線全体を多言語案内表示したことは、外国人に向けて有意義であったと言える。日本人にとって外国の教会が信仰の対象ではないように、外国人にとっては、神社仏閣は信仰の対象ではない。その施設が持つ歴史、芸術性、施設を含む街並みの雰囲気が観光資源である。今回の多言語表示案内ではこの視点で外国人に向けて充分訴求することができたと評価する。

今後の課題

バス路線につては事実上、生活路線であり観光路線ではない。今後、外国人に向けてアピールしていくなら、周遊の観光目的のバス路線やモデルルートの開発が望まれる。今回の多言語案内表示を進める意味でもひとり歩きの外国人にも対応できる体制を整えることが重要であると考える。

■奈良交通バス停共通サイン　談山神社の例

Sk18

Sk45

事前調査

●バス停の時刻表・路線図も境内の案内サインも日本語表記だけなのでわかりにくい。神社に辿りつくのが困難（英・韓）

●バス停は広い駐車場の端にある。案内看板は大きいがバス停から離れていて気づきにくい。

●日本語表記のみで、右折・左折のどちらでもいけるため矢印が両方あり、それが逆に混乱のもとになりそう。右折は裏道のようなイメージをもち、途中の誘導看板も小さくて日本語表記だけなので見落とす可能性がある。矢印は表参道の左折のみにした方がよい（英・韓）

検証調査

●バスストップという表現があったほうがバス停とわかる（中）

●バス停にベンチを置けばバス停らしくなる（中）

●なんとなくバス停だとわかるレベル（英）

●次の停留所を表示する必要はない。「次」を意味する矢印の方向にそのバス停があるように勘違いする可能性がある（英）

●「Next is」は「Next Stop is」のほうがわかりやすい（英）

■談山神社バス停付近　縦、横サイン

sk19

sk21

事前調査

●案内サインは日本語表記だけで、右にも左にも矢印があるのでどちらへ進んだらよいか迷う（英）

●「口」という漢字はわかるので案内サインで入口・出口ということは何とか理解できたが迷う（中）

検証調査

●「Jinja-Shrine」という表現は工夫が必要（英）

●矢印は片方（左）だけの方が混乱しない（中）

●鳥居のピクトグラムがあるので、その横の矢印のみが参拝口をさしているように見える（中）

●「On foot」は意味が広く注意が必要（英）

●文字、ピクトグラムも大きくてわかりやすい（中）

●上にある矢印も明確でわかりやすい（英）

＜土屋先生の意見＞

●鳥居のピクトグラムが万国共通ではない可能性があるので、常に携帯するもの（パンフレット等）と表示を統一する必要がある。

■談山神社バス停付近　縦、横サイン

sk22

sk23　　sk24

事前調査

●縦、横サインとも多言語化されておらず、矢印の先に何があるかわからない（英）

検証調査

●設置されているサインは帰路のためのサインとしては見やすいが、談山神社までのサインも別に設置してほしい（英）

●位置的にも帰路は見やすくよくわかる（中）

●設置位置も見やすく矢印など明確でわかりやすい（英）

●（〇〇）という表記は英語ではイコールの意味と考えられるので、東門の前に多武峰バス停があるように錯覚する。（〇〇）ではなく＆〇〇という表記の方がよい（英）

●バスの路線図も多言語化してほしい（中）

●談山神社バス停は多武峰パーキング内にあり多武峰バス停はまた別の場所にある（談合神社バス停の次のバス停）。ネーミングと位置関係が理解しにくく、日本語の地名は難しいことも助長して、複雑さを増している（英）

■聖林寺

sk17

事前調査

●日本語の誘導サインしかない（英）

検証調査

●わかりやすく、説明文も問題ない（中）

●帰りのバス停がどこかわからない（中）

●説明文はわかりやすいが、もう少し大きい方が望ましい（中）

＜土屋先生の意見＞

●狭い駐車場に設置されているので駐車車両の陰になると気づかない。もう少し高い位置に設置した方がよい。

■近鉄・JR桜井駅・バス車内

事前調査

●2階に改札口があり、観光案内所の看板は1階におりないとないので、見過ごしてしまう可能性がある（英）

●駅の構内地図がないとわからない（中）

●バスでの英語の案内表示がない

検証調査

●黄色の看板と茶色の看板とでは表記にばらつきがあるので要注意(中)

●茶色の看板の方が表記が自然でわかりやすい（英・中）

●概ね見やすくわかりやすい（英）

●北口を示す矢印に対して南口を示す矢印の方向がわかりづらい。上下にするとさらにわかりやすい（英）

●ピクトグラムも案内所もわかりやすい（英）

●JR桜井駅：改札前のサインは少し小さく感じる（中）

●コンコースから南側に向かい、東西2方向に分かれた階段上部に設置してあるバスの案内は、行き先に対する乗り場を表示しているが。バス停自体がどこにあるのかわかりづらい（英）

●バスの案内表示が多言語と数字の表記でわかりやすい

＜土屋先生の意見＞

●駅構内北側上部観光案内への黄色の誘導サイン：桜井観光案内所＝「Sakurai tourist office」ではなく「Tourist information office」とした方がよい。「Sakurai」はなくても意味が通じる。また、「office」もしくは「center」の方がよい。

●2階の観光案内所の表示板「？」に対して矢印（←）があるので理解しにくい。「？」は「桜井観光案内所」の文字の前につけるほうがよい。

●電子システムを使ったバスの案内表示は外国人にとってわかりやすい

■桜井駅周辺バス停

sk1

sk2

sk3

sk4

sk6

sk8

sk10

sk12

検証調査

●旅行者は南北の区別ではなく、目的地を中心に考えるので目的地名が先にあったほうがよい（中）

●北口から乗る「大神神社」と南口から乗る「談山神社」「聖林寺」「安倍文殊院」「長谷寺」を同一看板で表記する場合は四角囲みなどで明確に分けてほしい（中）

●コミュニティバス（＝ピンクライン）の対訳が小さい（英）

●180（丸の中に180）の表記が料金を示しているとはわからなかった。¥マークなど分かりやすく表記してほしい（中）

●「bus terminus」よりは「bus stops」の方がわかりやすい（英）

●時刻表も色分けしてほしい。ルートが多言語表記されていても時間がわかりにくい（中）

＜土屋先生の意見＞

●行き先までの所要時間の目安の表記が望ましい。

■安倍文殊院

sk12

事前調査

●行き先が2方向あるうえ、平日と週末で時刻表が異なるので、帰り方がわからない（中）

●バスのピクトグラムがあるからバス停と認識できるが、日本語表記だけなので不安（英）

●バスの時刻表は※印で「平日のみ運行」などの注釈があるが、時刻表の下に小さく表記されていて気付かずに困ることがある（韓）

●バス停から誘導看板がないので、どうやって文殊院に行ったらよいかわからない（韓）

●日本語のサインしかないので、境内をどう巡ればいいかわからない（英・中・韓）

sk12

検証調査

●バス停が小さい（中）

●行き先が日本語表記だけで帰り方がわからない（中）

●「BUS」の表示の方がわかりやすい（中）

●ピクトグラムがあるので理解できる（英）

●バス乗り場の表記と文殊院の表記を一緒にすると場所が混同してしまう。（中）

●看板を横置きにして2つの矢印を表示すればわかりやすい（英）

●「oldest~build」は「~built」。「~as national cultural treasures」は「~as a national cultural treasure」の方がわかりやすい（英）

●中国語では「財産」ではなくて「遺産」と書くほうが一般的（中）

●神社とお寺がどう違うのか説明がほしい（中）

＜土屋先生の意見＞

●表参道の入口がわかりにくいので交差点部分にサインを出すほうがよい。

■長谷寺

sk35

sk36

sk37

sk38

sk39

sk40

事前調査

●誘導サインは言語だけなのでわからないが、パンフレットは地図があるのでわかりやすい（英）

検証調査

●日本語以外の表記が小さい（中）

●距離表示はわかりやすくてよい（中）

●長谷寺駅へ向かうサインは帰り道が二方向（階段表示）あるが、階段にはサインがない。階段前にもサインがほしい(中)

●電柱に設置された長谷寺までの距離表示は横断歩道の手前に設置（900m表示）されていたが、横断歩道の向こう側に設置されている方が目に付く（英）

●長谷寺と十二柱神社の分岐はとてもわかりやすい(全員)

●電柱に設置された長谷寺までの距離表示は設置場所が低くてわかりにくいので道路に表記するなどの工夫が望ましい（中）

＜土屋先生の意見＞

●直進＝興喜天満宮、左折＝長谷寺の分岐点はサイン通りに進むと、興喜天満宮を長谷寺と勘違いしてしまう。直進が興喜天満宮、長谷寺は左折と二方向を明記するほうがよい。

■観光パンフレット（桜井市「さくらい」繁体字版）

事前調査

●英語版、ハングル中文併記版などはあるが、繁体字版がない。簡体字でも読めないことはないが、やはり使いづらさがある。同じ感じでも違う意味を持つ場合がある。

検証調査

●繁体字版があって大変便利。ただ、観光案内所にあることを、はじめての観光客は知りにくい。

バスツアーなどが多いので、主要観光地におくか、旅行会社を通じて事前に配布して欲しい。

＜実地調査記録写真＞

■近鉄吉野駅前

■近鉄吉野駅前サイン

■近鉄吉野駅前サイン

■吉野山ケーブル乗り場への誘導サイン

■吉野山ケーブル乗場（千本口駅）

■吉野山ケーブル

■吉野山ビジターセンター前サイン

■金峯山寺前バスのりば

■ケーブル吉野山駅

■談山神社誘導サイン

■談山神社徒歩入口サイン

■談山神社誘導サイン

■聖林寺駐車場内案内サイン

■安倍文殊院バス停

■安倍文殊院参道

■近鉄長谷寺駅

■長谷寺誘導サイン

■長谷寺誘導サイン

■長谷寺誘導サイン

■長谷寺誘導サイン

■近鉄桜井駅構内案内サイン

■近鉄桜井駅南口バスのりば

■近鉄桜井駅北口バスのりば

■近鉄桜井駅北口バスのりば

■大神神社参拝者歩道案内サイン

■近鉄大和八木駅前バスのりば

■近鉄大和八木駅前案内サイン

■今井町案内サイン

■今井まちなみ交流センター

■橿原市藤原京資料館前バス停